

09. 4. 2004

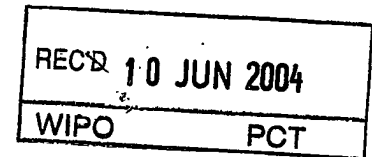
日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2003年 3月20日

出 願 番 号
Application Number: 特願2003-077812
[ST. 10/C]: [JP2003-077812]



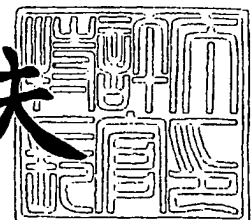
出 願 人
Applicant(s): 大日本印刷株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 5月27日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 020037

【提出日】 平成15年 3月20日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G02B 5/00
G03B 21/56
H04N 5/72

【発明者】

【住所又は居所】 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

【氏名】 大澤 太

【発明者】

【住所又は居所】 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

【氏名】 本田 誠

【特許出願人】

【識別番号】 000002897

【氏名又は名称】 大日本印刷株式会社

【代理人】

【識別番号】 100117226

【弁理士】

【氏名又は名称】 吉村 俊一

【電話番号】 03-3947-4103

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 176752

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0210056

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 透過型スクリーン

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 観察者側の面にフレネルレンズ要素が形成されたフレネルレンズシートと、当該フレネルレンズシートの観察者側に配置された遮光シートとを有する透過型スクリーンであって、

前記遮光シートには、観察者側から入射する外光のうち前記フレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射し、観察者側に出光する外光を吸収する遮光要素が形成されていることを特徴とする透過型スクリーン。

【請求項 2】 前記遮光要素が、少なくとも、式 (1) を満たす角度 θ で遮光シート中に透過屈折した外光を透過することを特徴とする請求項 1 に記載の透過型スクリーン（ここで、 θ は遮光シートに入射する外光の角度 (°) であり、 F はフレネルレンズ要素の焦点距離 (mm) である）。

【数 1】

$$\theta < 24 + 0.018 \times F \quad \dots (1)$$

【請求項 3】 前記遮光シートは、一方向に延びるリブを複数配列したリブ群と、当該リブとの間に全反射面を有し、投射光源側から入射した映像光を観察者側に向かって全反射させる遮光要素とを有するものであり、

当該遮光要素は、光吸収材が充填されている光吸収部であることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の透過型スクリーン。

【請求項 4】 前記光吸収材が、リブを構成する第 1 の樹脂の屈折率より低い屈折率からなる実質的に透明な第 2 の樹脂に光吸収作用を持つ粒子を分散させたものであることを特徴とする請求項 3 に記載の透過型スクリーン。

【請求項 5】 前記遮光シートが最も観察者側に配置され、当該遮光シートの観察者側の最表面には反射防止層またはハードコート層が形成されていることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の透過型スクリーン。

【請求項 6】 レンチキュラーレンズシートが前記遮光シートと前記フレネルレンズシートとの間に設けられている透過型スクリーンであって、

前記遮光シートの投射光源側の面と前記レンチキュラーレンズシートの観察者側の面とが前記リブの配列方向と前記レンチキュラーレンズ要素の配列方向とが直交するように、当該遮光シートと当該レンチキュラーレンズシートとが接着されていることを特徴とする請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載の透過型スクリーン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、CRT や液晶ライトバルブを用いた背面投射型表示装置等に好ましく用いることができる透過型スクリーンに関し、特に、外光によるコントラストの低下を防止した透過型スクリーンに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

背面投射型のプロジェクションテレビジョン（以下、PTV という。）においては、コントラストの低下を抑制するための検討が従来から行われている。PTV におけるコントラストの低下の代表的な要因としては、投射光源からの投射光が透過型スクリーンに形成された各種のレンズ要素で反射して迷光となり不要光として観察者側に出光する場合や、照明などの外光が観察者側から透過型スクリーンに入り込み、再び観察者側に不要光として出てきた場合などがある。

【0003】

前者の場合においては、透過型スクリーンを構成するフレネルレンズシートの非レンズ面に光吸収体または光散乱体を設けることにより、不要光を吸収または散乱させてコントラストの低下を抑制する例が知られている（例えば、特許文献 1 を参照）。また、透過型スクリーンを構成するフレネルレンズシート内に光吸収部を形成したり光吸収材を分散含有させたりして、不要光をその光吸収部または光吸収材に吸収させてコントラストの低下を抑制する例も知られている（例えば、特許文献 2 を参照）。

【0004】

一方、後者の場合においては、反射防止コーティングが施されたフレネルレン

ズシートを用いることにより、外光の反射を抑制してコントラストの低下を抑制した透過型スクリーンの例や、光吸収材を含有させたフレネルレンズシートを用いることにより、外光の反射を抑制してコントラストの低下を抑制した透過型スクリーンの例が知られている。

【0005】

【特許文献1】

特開平4-163539号公報（第1図）

【特許文献2】

特開平6-148407号公報（図2、図4）

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

P T Vは家庭等の室内に設置されている場合が多いことから、P T Vのコントラストの低下の原因として室内照明等の通常の照明装置からの外光の影響を無視することができず、その外光に起因したコントラストの低下を抑制することが重要な課題となっている。

【0007】

しかしながら、反射防止コーティングが施されたフレネルレンズシートを用いた例では、得られたフレネルレンズシートのコストが高く、コストバランスの観点からは必ずしも好ましい手段とはいえないものであった。また、光吸収材を含有したフレネルレンズシートを用いた例では、コントラストの低下を十分に抑制するためには十分な量の光吸収材を含有させる必要があるが、その結果、却ってフレネルレンズシートの光透過率が低下して画像が暗くなってしまうという難点があった。

【0008】

また、室内照明等の通常の照明下において、フレネルレンズシートを構成シートとして用いた透過型スクリーンを備えたP T Vを見た場合、透過型スクリーンのセンターの上部に円弧状の白帯が認識され コントラスト低下による映像劣化が生じているのが確認された。この原因は、ある角度で透過型スクリーン中に入射した照明光（外光）が、フレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射し、

観察者側に再び出光したことによるものであった。

【0009】

本発明は、上記課題を解決するためになされたものであって、その目的は、室内照明等の外光に起因したコントラストの低下を防止した透過型スクリーンを提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するための請求項1の発明は、観察者側の面にフレネルレンズ要素が形成されたフレネルレンズシートと、当該フレネルレンズシートの観察者側に配置された遮光シートとを有する透過型スクリーンであって、前記遮光シートには、観察者側から入射する外光のうち前記フレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射し、観察者側に出光する外光を吸収する遮光要素が形成されていることを特徴とする。

【0011】

この発明によれば、遮光シートに形成された遮光要素が、観察者側から入射する外光のうちフレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射し、観察者側に出光する外光を吸収するので、フレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射する角度で入光する外光を減らし、全反射して再び観察者側に出光するのを極力少なくすることができる。その結果、室内照明等の外光に起因したコントラスト低下に基づく解像度の低下を防止することができる。

【0012】

請求項2の発明は、請求項1に記載の透過型スクリーンにおいて、前記遮光要素が、少なくとも、式(1)を満たす角度 θ で遮光シート中に透過屈折した外光を透過することを特徴とする（ここで、 θ は遮光シートに入射する外光の角度（°）であり、Fはフレネルレンズ要素の焦点距離（mm）である）。

【0013】

【数2】

$$\theta < 24 + 0.018 \times F \quad \dots (1)$$

【0014】

この発明によれば、遮光シートには、遮光シートに入射した外光のうち上記式を満たす角度 θ で遮光シート中に透過屈折した外光を透過する遮光要素が形成されているので、少なくともその遮光シートを透過する（遮光要素に吸収されない）外光は、フレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射することはない。従って、遮光要素にトラップされずにフレネルレンズシートに透過する上記式を満たす外光が透過型スクリーンに照射されたとしても、その外光に基づくコントラストの低下が起こらず、解像度の低下を防止することができる。

【0015】

請求項3の発明は、請求項1または請求項2に記載の透過型スクリーンにおいて、前記遮光シートは、一方向に延びるリブを複数配列したリブ群と、当該リブとの間に全反射面を有し、投射光源側から入射した映像光を観察者側に向かって全反射させる遮光要素とを有するものであり、当該遮光要素は、光吸収材が充填されている光吸収部であることを特徴とする。

【0016】

この発明によれば、光吸収材が充填されている光吸収部が遮光要素としての機能を発揮し、観察者側の面から入射してフレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射すると想定される外光を吸収するので、フレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射し、観察者側に出光する外光を極力なくすることができる。その結果、室内照明等の外光に起因したコントラスト低下に基づく解像度の低下を防止することができる。

【0017】

請求項4の発明は、請求項3に記載の透過型スクリーンにおいて、前記光吸収材が、リブを構成する第1の樹脂の屈折率より低い屈折率からなる実質的に透明な第2の樹脂に光吸収作用を持つ粒子を分散させたものであることを特徴とする。

【0018】

この発明によれば、遮光要素として機能する光吸収部中の光吸収材が、リブを構成する第1の樹脂の屈折率より低い屈折率からなる第2の樹脂に光吸収粒子を

分散させた材により形成されているので、透過型スクリーンに照射した外光は、その光吸収部に充填された光吸収材に直接吸収されるか、もしくは遮光シートに入射して光吸収部とリブとの境界面で屈折して光吸収部内に透過屈折し、光吸収材に吸収される。

【0019】

請求項5の発明は、請求項1～4のいずれか1項に記載の透過型スクリーンにおいて、前記遮光シートが最も観察者側に配置され、当該遮光シートの観察者側の最表面には反射防止層またはハードコート層が形成されていることを特徴とする。

【0020】

この発明によれば、遮光シートの観察者側の最表面に形成された反射防止層により、遮光シートに照射した外光の反射を抑制することができる。または、形成されたハードコート層により、耐擦過性等の耐久性が向上して遮光シートの効果を長期間保持することができるので、外光に起因したコントラスト低下に基づく解像度の低下を長期にわたって防止することができる。

【0021】

請求項6の発明は、請求項1～5のいずれか1項に記載の透過型スクリーンにおいて、レンチキュラーレンズシートが前記遮光シートと前記フレネルレンズシートとの間に設けられている透過型スクリーンであって、前記遮光シートの投射光源側の面と前記レンチキュラーレンズシートの観察者側の面とが前記リブの配列方向と前記レンチキュラーレンズ要素の配列方向とが直交するように、当該遮光シートと当該レンチキュラーレンズシートとが接着されていることを特徴とする。

【0022】

【発明の実施の形態】

本発明の透過型スクリーンの実施形態について、図面を参照しつつ説明する。

【0023】

図1は、本発明の透過型スクリーン17を備えるプロジェクションテレビジョン1（PTV）の一例を示す説明図であり、図2は、そのPTV1を横側から見

たときの説明図である。

【0024】

透過型スクリーン17は、PTV1の観察者側20の前面に枠体18によって装着されており、そのPTV1の内部には、例えばRGBのCRTからなる投射光源11が設置されている。投射光源11から投射された投射光（映像光ともいう）は、図1および図2に示すように、ミラー12で反射され、フレネルレンズシート14および遮光シート13を少なくとも有する透過型スクリーン17の背面側から投射される。

【0025】

本発明の透過型スクリーン17は、図1に示すように、観察者側の面にフレネルレンズ要素が形成されたフレネルレンズシート14と、そのフレネルレンズシート14の観察者側に配置された遮光シート13とを少なくとも有するものである。そして、本発明の特徴とするところは、フレネルレンズシート14の観察者側に配置された遮光シート13に、観察者側から入射する外光2のうちフレネルレンズシート14の投射光源側の面で全反射し、観察者側に出光する外光を吸収する遮光要素22が形成されていることにある。

【0026】

なお、図1に例示したように、フレネルレンズシート14としてサーキュラーフレネルレンズシートが好ましく用いられ、また、フレネルレンズシート14と遮光シート13との間には、ストライプ状の光吸収部が観察者側に形成された両面レンチキュラーレンズシート15を好ましく配置することができる。また、遮光シート13の観察者側の表面には、反射防止層またはハードコート層等の機能層16を好ましく設けることができる。

【0027】

（フレネルレンズシート）

本発明の透過型スクリーン17に適用されるフレネルレンズシート14としては、例えば図1に示すように、観察者側の面にサーキュラーフレネルレンズ要素が形成されたフレネルレンズシートを好ましく挙げることができる。フレネルレンズシートの規格（大きさ、アスペクト比等）としては各種のものを挙げるこ

ができ、その焦点距離Fについても任意に設計された各種のフレネルレンズシートを適用することができる。例えば、後述の実施例には、スクリーンサイズが46インチ（アスペクト比、4：3）、F2が9800mm、F（焦点距離）が700～900mmのもので評価した例を示している。なお、Fはフレネルレンズシートに形成されているフレネルレンズ要素の焦点距離であり、F2はフレネルレンズシートから結像面までの距離であり、F1は投射光源からフレネルレンズシートまでの距離であり、これらの関係は、 $1/F = 1/F1 + 1/F2$ 、である。

【0028】

（遮光シート）

図3および図5は、遮光シート13に形成された遮光部21の断面形態の例を示しており、図4および図6は、それぞれの遮光シート13の全体を示す斜視図である。遮光シート13は、実質的に透明な基材20上に遮光要素22を有する遮光部21を設けた態様を成している。遮光部21には、一方向に延びるリブ24を複数配列したリブ群と、そのリブ24との間に全反射面41を有し、投射光源側から入射した映像光を観察者側に向かって全反射させる遮光要素22とを有している。

【0029】

本発明における遮光要素22は、フレネルレンズシート14の観察者側に配置され、その遮光要素22が、観察者側から入射する外光2のうちフレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射し、観察者側に出光する外光を吸収することに特徴がある。遮光要素22は、図3に示すように、光吸収材が充填されたV字形状の光吸収部や、図5に示すように、光吸収材が充填された直線状の光吸収部を例示することができる。

【0030】

遮光要素22は、図3および図5に示すように、観察者側から遮光シート13に入射し、さらに遮光シート13中を通過してフレネルレンズシートに到達する外光のうち、フレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射して再び観察者側に戻ってくる外光を吸収する機能を有している。

【0031】

そうした機能を有する遮光シート13は、図3および図5に示すように、遮光シート13に入射する外光の角度と遮光シートを構成する各材料の屈折率とにより、外光の光路は3つのパターンに分けられる。

【0032】

第1の光路パターンは、外光2が角度 θ_{A1} で入射した場合であり、その外光2はリブ24の全反射面41に当たらずに遮光部21と基材20を透過し、最終的に基材20から θ_{C1} で出射する。第2の光路パターンは、外光2が角度 θ_{A2} で入射した場合であり、その外光2はリブ24の全反射面41に当たる角度で入射する。この場合、リブ24と遮光要素22の屈折率差による全反射臨界角以下の角度(θ_{r1})で全反射面41に入射すると、外光2は全反射され、最終的に前述と同じ光路を通り、角度 θ_{C2} で出射する。第3の光路パターンは、外光2が角度 θ_{A3} で入射した場合であり、全反射面41に全反射臨界角以上の角度(θ_{r2})で入射する。この場合、外光2は全反射面41で全反射せず、遮光要素22に光は吸収される。

【0033】

遮光シート13の形状を決定するパラメータとしては、遮光要素22の幅W、遮光要素22のピッチP、遮光要素22の深さL、遮光シートの各構成樹脂の屈折率、全反射面の角度(θ_{α})を挙げることができる。これらのパラメータを変化させることによって、式(1)を満たすよう設定することができる。

【0034】

さらに詳細に特定するには、フレネルレンズシート14の構成樹脂の屈折率と、フレネルレンズシート14の観察者側の面に形成されたフレネルレンズ要素のレンズ面の傾斜角度を考慮することが望ましい。それらを考慮した遮光シート13の形状及び材料は、フレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射する臨界角以上の角度となる外光4をフレネルレンズシート14に到達させるのを妨げるように設計される。フレネルレンズシートについて考慮したパラメータも、上述した本発明の有効な着想に基づいてシュミレーションを行うことにより任意に特定することができる。

【0035】

遮光要素22は、少なくとも、フレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射して再び観察者側に戻ってくる外光を吸収するように設計されていればよく、フレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射せずにPTV1の内部壁に吸収されることとなる外光はそのまま透過するように設計することができる。

【0036】

具体的には、上述した遮光要素22が、少なくとも、上述した式(1)を満たす角度 θ ($=\theta_{An}$ 。以下同じ。)で遮光シート13中に透過屈折した外光、又は、透過、全反射及び透過屈折した外光を透過することが好ましい。式(1)中、 θ_{An} は遮光シートに入射する外光の角度($^{\circ}$)であり、Fはフレネルレンズ要素の焦点距離(mm)である。上記式を満たす角度で遮光シート13中に透過屈折した外光、又は、透過、全反射及び透過屈折した外光は、遮光要素22で吸収されずに遮光シート13を通過するが、通過した外光4は、フレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射することがない。従って、遮光要素22に吸収されない上記の外光4によっては、透過型スクリーンのコントラストの低下が起こらず、解像度の低下を防止することができる。なお、最終的にその外光4は、フレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射せずに透過型スクリーン17を全て通過してPTV室内の黒壁で吸収されることとなる。

【0037】

図7は、遮光シート13がなければフレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射してしまう外光2を、そのフレネルレンズシート14の観察者側に設けられた遮光シート13が有する遮光要素22で吸収する様を示している。なお、その遮光シート13は、フレネルレンズシート14の投射光源側の面51で全反射してしまう外光2の最小角度よりも小さい角度で遮光シート13に入射する外光2については透過してもよい。そうして透過した外光2は、フレネルレンズシートの投射光源側の面51で全反射することがなく、PTV1の室内壁で吸収される。

【0038】

こうした遮光要素 22 により、フレネルレンズシート 14 の投射光源側の面 51 で全反射する角度で入光する外光 2 を極力減らすことができ、その結果、全反射して再び観察者側に出光するのを極力少なくすることができる。

【0039】

なお、遮光要素 22 の形状を決定するパラメータは、本発明の有効な着想に基づいてシュミレーションを行うことにより任意に特定されるが、例えば後述の実施例にはスクリーンサイズが 46 インチ（アスペクト比、4:3）、F2 が 9800 mm、F（焦点距離）が 700～900 mm のものにおいては、例えば、遮光シートの構成樹脂の屈折率として 1.55 のものを用いた場合には、遮光要素 22 の幅 W が 25～210 μm で、遮光要素 22 のピッチ P が 50～300 μm で、遮光要素 22 の深さ L が 63～900 μm 、全反射面 41 の角度（ $\theta\alpha$ ）が $5^\circ \sim 10^\circ$ のように設計することができる。

【0040】

遮光要素 22 を構成する光吸収材としては、リブ 24 を構成する第 1 の樹脂 23 の屈折率より低い屈折率からなる実質的に透明な第 2 の樹脂に光吸収作用を持つ粒子を分散させたものを好ましく例示することができるが、特にその構成に限定されるものではなく、本発明の所期の目的を達成できる各種の光吸収材を適用することができる。こうした光吸収材は、透過型スクリーン 17 に照射した外光 2 を直接吸収し、もしくは遮光シート 13 に入射して遮光要素 22 とリブ 24 との境界面で全反射せずに屈折して遮光要素 22 内に透過屈折した外光を吸収する。遮光要素 22 を形成する低屈折率の樹脂材料中には、光吸収効果を有する染料を含有させて着色することもできる。

【0041】

投射光源側からフレネルレンズシート 14 により偏向されて垂直に入光した光は、そのまま全反射面 41 に当たらず、出射されるか、又は遮光要素 22 を構成する樹脂材料の屈折率とリブ 24 を構成する樹脂材料の屈折率差により透過リブ 24 と遮光要素 22 との境界の全反射面 41 で全反射し、透過、出射される。

【0042】

光吸収部として機能する遮光要素 22 は、黒色や灰色などの無彩色であること

が好ましいが、これに限定されるものではなく、外光 2 の特性等に合わせて特定の波長を選択的に吸収する材料を使用してもよい。遮光要素 22 に含有される光吸収性の粒子としては、カーボンブラック、グラファイト、黒色酸化鉄などの金属塩の他、着色した有機微粒子、着色したガラスビーズ等を、また、着色染料としては、アシドレッド等のキサンテン系有機染料、カルボン酸ネオジム等の有機酸ネオジム等が挙げられる。

【0043】

こうした遮光要素 22 を有する遮光シート 13 は、先ず、加熱プレス法、熱重合法、放射線硬化法などの周知の方法で成型型からの複製でリブ 24 を形成し、次に、そのリブ間の V 字状または直線状の溝に光吸収材料をワイピング等の方法により充填することにより形成することができる。

【0044】

リブ 24 を形成する材料として、放射線硬化型樹脂を用いることが製造上の観点から好ましい。放射線硬化型樹脂としては、当該分野で一般的に使用されているものから選ぶことができ、例えば、アクリル系、エポキシ系、ウレタン系などの紫外線硬化型樹脂や電子線硬化型樹脂等が好適に用いられる。また、遮光シート 13 のベースとなる実質的に透明な基材 20 については、ポリエステルフィルム、ポリカーボネートフィルム等の一般的なフィルムやシートが好適に用いられる。

【0045】

(機能層および前面シート)

図 8 は、遮光シート 13 の観察者側の最表面に機能層 30 を形成した一例を示す断面図である。機能層 30 としては、反射防止層、ハードコート層、防眩処理層または帯電防止層を挙げることができ、特に反射防止層またはハードコート層を好ましく挙げることができる。反射防止層は、遮光シート 13 の観察者側の表面に反射防止剤を塗布することにより形成することができる。反射防止層が形成された遮光シート 13 は、遮光シート 13 に照射した外光 2 が遮光シート 13 の表面で反射するのを抑制することができる。一方、ハードコート層も、遮光シート 13 の観察者側の表面に反射防止剤を塗布することにより形成することができる。

る。ハードコート層が形成された遮光シート 13 は、耐擦傷性等の耐久性が向上するので、本発明に係る遮光シート 13 の効果を長期間保持することができる。その結果、遮光シート 13 に照射する外光 2 に起因したコントラスト低下に基づく解像度の低下を長期にわたって防止することができる。

【0046】

図 9 は、遮光シート 13 の観察者側に前面シート 31 を設けた態様を示している。この前面シート 31 は、基材シート 32 とその基材シート 32 上に設けられた機能層 33 とから構成され、接着剤 34 を介して遮光シート 13 の観察者側の面に接着されている。基材シート 32 としては、アクリル系の樹脂材料からなるシートを好ましく適用でき、機能層 33 としては、上述した反射防止層、ハードコート層、防眩処理層または帯電防止層を適用することができる。また、接着剤としては、アクリル系の接着剤が好ましい。

【0047】

(レンチキュラーレンズシート)

本発明の透過型スクリーンは、図 1 に示すように、遮光シート 13 とフレネルレンズシート 14 との間にレンチキュラーレンズシート 15 を設けた 3 枚構成としてもよい。

【0048】

レンチキュラーレンズシート 15 としては、投射光源側と観察者側の両面にレンチキュラーレンズ要素を備える両面レンチキュラーレンズが好ましく用いられる。両面レンチキュラーレンズシート 15 は、上下方向 Y に延びるレンチキュラーレンズ要素が投射光源側および観察者側のシート両面の幅方向 X に配列され、さらに、観察者側に配列した両面レンチキュラーレンズ要素間の非集光部に光吸収部（ブラックストライプ部）が設けられ、迷光や外光を吸収し、コントラストを向上させている。こうした両面レンチキュラーレンズシート 15 は、押出し法、加熱プレス法、熱重合法、放射線硬化法などの周知の方法で成形することができる。

【0049】

レンチキュラーレンズシート 15 は、遮光シート 13 の投射光源側の面とレン

チキュラーレンズシート 15 の観察者側の面とで接着されることが好ましく、リブ 24 の配列方向とレンチキュラーレンズ要素の配列方向とが直交するように接着されていることがより好ましい。このような配置で接着することにより、非常にコントラストのよい映像を得ることができる。

【0050】

また、レンチキュラーレンズシート 15 が高精細で薄板のものの場合には、遮光シート 13 とレンチキュラーレンズシート 15 を光吸収部（ブラックストライプ部）で接着することで、シートとしての剛性を向上させることができる。

【0051】

また、PTV1 の投射光源が LCD や DLP 等の単管型光源の場合に使用される、出射側が平坦なレンチキュラーレンズの場合においては、レンチキュラーレンズシートの観察側面の全面で遮光シート 13 と接着することもできる。

【0052】

【実施例】

実施例により本発明を更に具体的に説明する。

【0053】

（実施例 1）

まず、46 インチ型（縦 701 mm × 横 935 mm、アスペクト比 3 : 4）透過型スクリーン用の遮光シート 13 を作製した。厚さ 188 μ m の PET フィルム基材（屈折率：1.65）の一方の面に、硬化後の屈折率が 1.55 のアクリル系紫外線硬化型樹脂により、断面台形状のリブ 24 を形成し、斜面角度 θ_α が 8° の三角形の溝を形成した。その溝には、屈折率が 1.49 のアクリル系紫外線硬化型樹脂塗料中に、カーボンブラックにて着色された平均粒径 10 μ m のアクリル架橋粒子を 50 重量% 分散させた光吸収材料を充填し、遮光要素 22 を形成した。このとき、観察者側の面に表れる遮光要素 22 の幅 W を 100 μ m、遮光要素 22 のピッチ P を 200 μ m、遮光要素 22 の深さ L を 340 μ m とした。

【0054】

次に、46 インチ透過型スクリーン用のフレネルレンズシート 14 を準備した

。このフレネルレンズシート 14 は、フレネルレンズ成形金型に、屈折率 1.55 の紫外線硬化型樹脂を流下し、そこに、厚さ 2 mm で屈折率 1.53 のアクリルスチレン共重合樹脂からなる基板を重ね合わせるにより、投射光源側の面 51 が平坦な厚さ 2.2 mm、F2 が 9800 mm のサーキュラーフレネルレンズシートを作製した。フレネルレンズ成形金型の製造には、先端角度が 45° のバイトを用いた。

【0055】

準備されたフレネルレンズシート 14 と遮光シート 13 を重ね合わせて、実施例 1 の透過型スクリーンを構成した。

【0056】

(実施例 2)

まず、46 インチ型（縦 701 mm × 横 935 mm、アスペクト比 3 : 4）透過型スクリーン用の遮光シート 13 を作製した。厚さ $188 \mu\text{m}$ の PET フィルム基材（屈折率：1.65）の一方の面に、硬化後の屈折率が 1.55 のアクリル系紫外線硬化型樹脂により、断面長方形形状のリブ 24 を形成し、同じく長方形の遮光要素 22 を以下の内容で形成した。遮光要素 22 には、屈折率が 1.46 のアクリル系紫外線硬化型樹脂塗料中に、カーボンブラックにて着色された平均粒径 $5 \mu\text{m}$ のアクリル架橋粒子を 50 重量% 分散させた光吸収材料を充填し、形成した。このとき、観察者側の面に表れる遮光要素 22 の幅 W を $40 \mu\text{m}$ 、遮光要素 22 のピッチ P を $200 \mu\text{m}$ 、遮光要素 22 の深さ L を $350 \mu\text{m}$ とした。

【0057】

次に、46 インチ透過型スクリーン用のフレネルレンズシート 14 を実施例 1 と同内容で作製し、準備した。

【0058】

準備されたフレネルレンズシート 14 と遮光シート 13 を重ね合わせて、実施例 2 の透過型スクリーンを構成した。

【0059】

(評価)

実施例 1、2 の透過型スクリーンを市販の PTV に装着して評価した。表 1 は

、実施例 1、2 の透過型スクリーンの照射される外光 2 が、フレネルレンズシート 1 の投射光源側の面 51 で全反射しない最小角度を示した結果である。

【0060】

【表 1】

レンズ中心からの距離 (mm)	焦点距離 F (mm)				
	900	850	800	750	700
50	65.8	65.0	64.7	64.2	63.5
100	58.5	57.7	57.0	56.4	55.5
150	53.5	52.8	52.0	51.2	50.3
200	49.5	48.8	48.0	47.2	46.2
250	46.4	45.5	44.7	43.9	42.8
300	43.6	43.0	42.0	41.0	40.0
350	41.2	40.5	39.5	38.5	37.5

【0061】

表 1 の結果は、いずれも $\theta < 24 + 0.018 \times F$ を満たしていた。また、図 10 は、実施例 1、2 の透過型スクリーンに入射角度 20° の外光 2 を照射したときの遮光シート 13 を通過する外光光線追跡図である。また、図 11 は、実施例 1、2 の透過型スクリーンに入射角度 40° の外光 2 を照射したときの遮光シート 13 を通過する外光光線追跡図である。この結果から、実施例 1、2 の透過型スクリーンは、遮光シート 13 に照射した外光 2 のうち遮光シート 13 を透過屈折して通過する外光 4 が一部存在したとしても、その外光 4 はフレネルレンズシート 14 の投射光源側の面 51 で全反射せずに通過する。その結果、観察者側に再び外光が戻ることがなく、透過型スクリーンに映し出される映像のコントラストの低下が起こらなかった。

【0062】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の透過型スクリーンによれば、遮光シートに形成された遮光要素が、観察者側から入射する外光のうちフレネルレンズシート 1 の投射光源側の面で全反射し、観察者側に出光する外光を吸収するので、フレネルレンズシート 1 の投射光源側の面で全反射する角度で入光する外光を減らし、全反射して再び観察者側に出光するのを極力少なくすることができる。その結果、室内

照明等の外光に起因したコントラスト低下に基づく解像度の低下を防止することができる。

【0063】

この発明によれば、遮光シートには、遮光シートに入射した外光のうち上記式を満たす角度 θ で遮光シート中に透過屈折した外光を透過する遮光要素が形成されているので、少なくともその遮光シートを透過する（遮光要素に吸収されない）外光は、フレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射することはない。従って、遮光要素にトラップされずにフレネルレンズシートに透過する上記式を満たす外光が透過型スクリーンに照射されたとしても、その外光に基づくコントラストの低下が起こらず、解像度の低下を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の透過型スクリーンを備えるプロジェクションテレビジョンの一例である。

【図2】

図1のPTVを横側から見たときの説明図である。

【図3】

遮光シートに形成された遮光要素の断面形態の一例である。

【図4】

図3の遮光シートの全体を示す斜視図である。

【図5】

遮光シートに形成された遮光要素の断面形態の他の一例である。

【図6】

図5の遮光シートの全体を示す斜視図である。

【図7】

本発明の透過型スクリーンに照射した外光が吸収される態様を示す説明図である。

【図8】

遮光シートの観察者側の最表面に機能層を形成した一例を示す断面図である。

【図 9】

遮光シートの観察者側に前面シートを設けた態様の一例を示す断面図である。

【図 10】

実施例 1 の透過型スクリーンに入射角度 20° の外光を照射したときの遮光シートを通過する外光光線追跡図である。

【図 11】

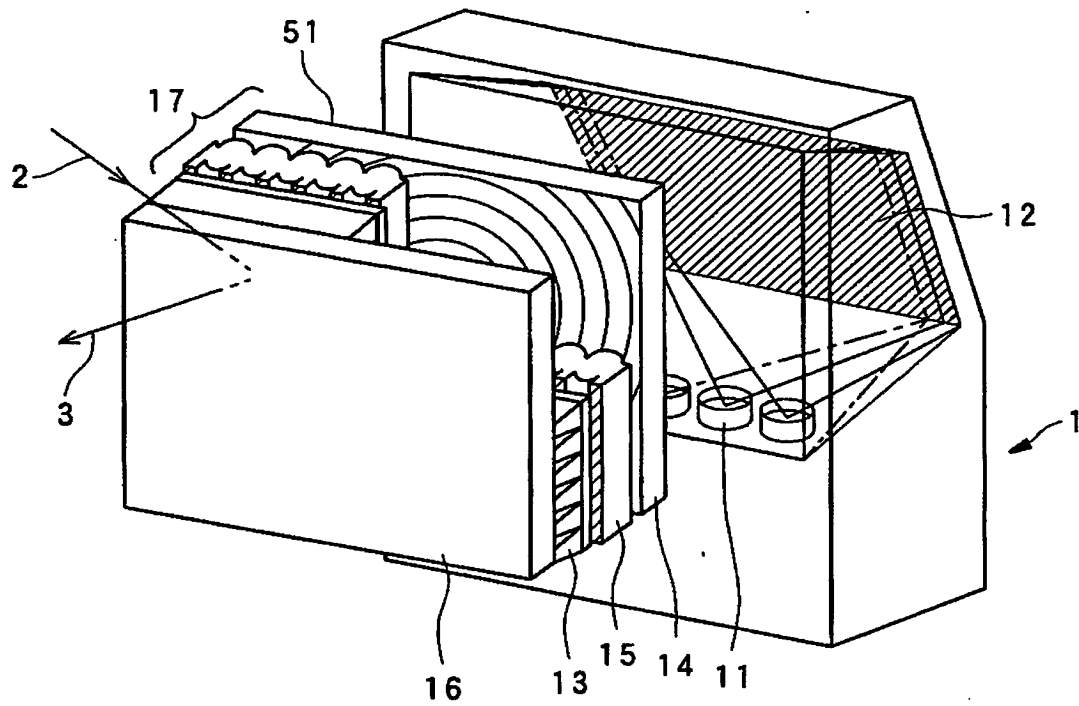
実施例 1 の透過型スクリーンに入射角度 40° の外光を照射したときの遮光シートを通過する外光光線追跡図である。

【符号の説明】

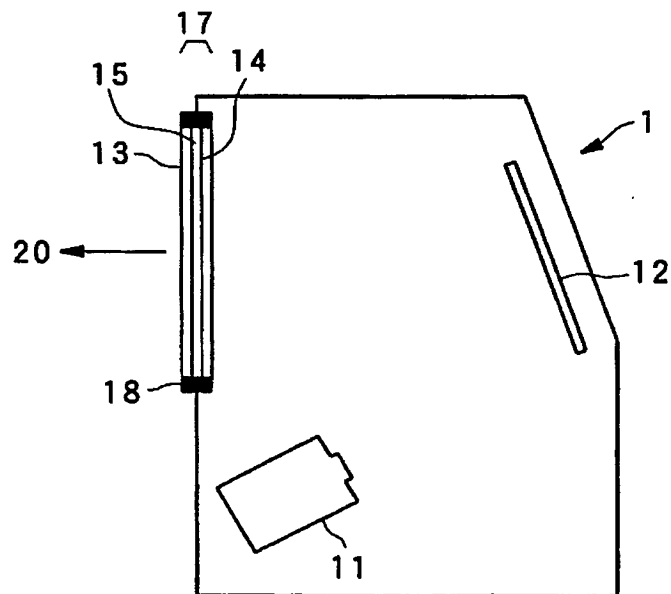
- 1 プロジェクションテレビジョン
- 2 外光
- 3 全反射した外光
- 4、5、6 透過光
- 13 遮光シート
- 14 フレネルレンズシート
- 15 レンチキュラーレンズシート
- 17 透過型スクリーン
- 20 基材
- 21 遮光部
- 22 遮光要素
- 23 第 2 の樹脂
- 24 リブ
- 30、33 機能層
- 31 機能シート
- 32 基材シート
- 34 接着剤
- 41 全反射面
- 42 平坦部
- 51 観察者側の面

【書類名】 図面

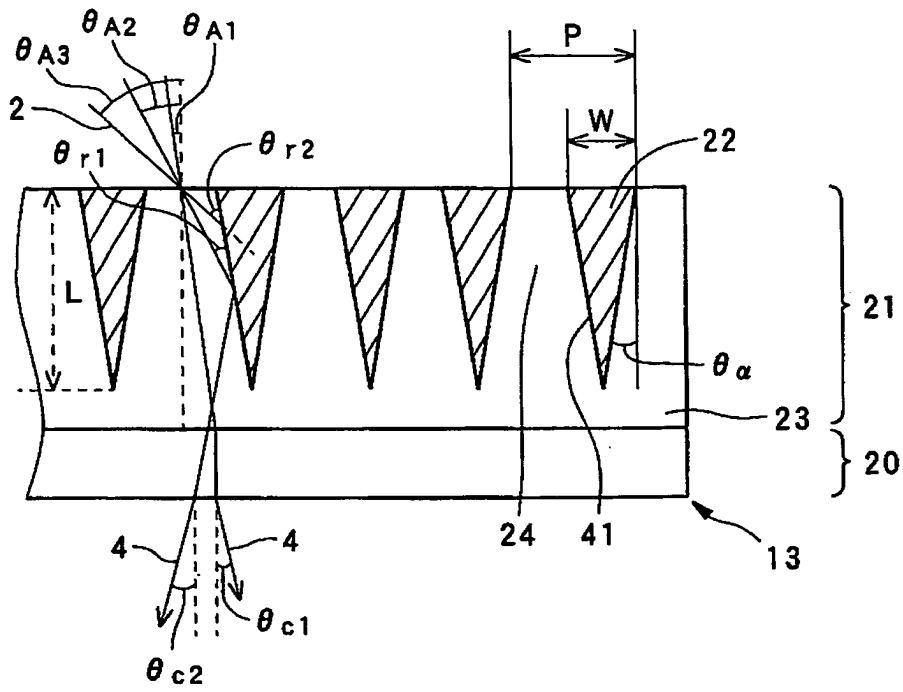
【図 1】



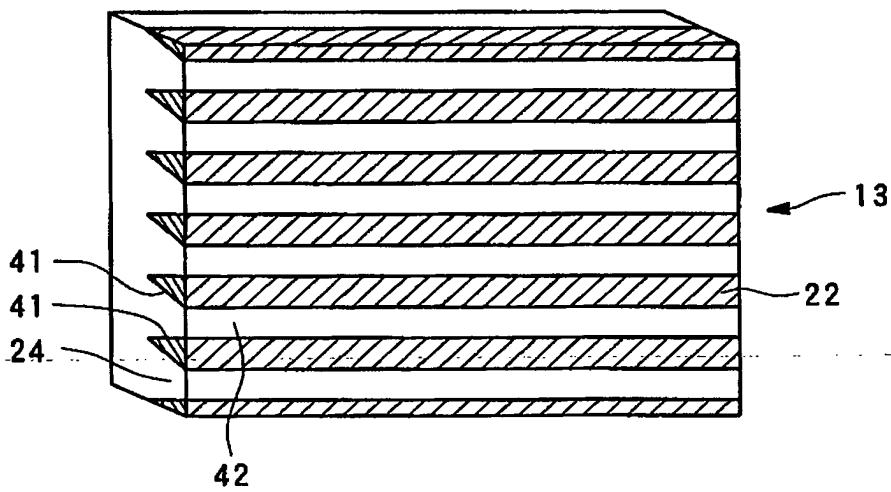
【図 2】



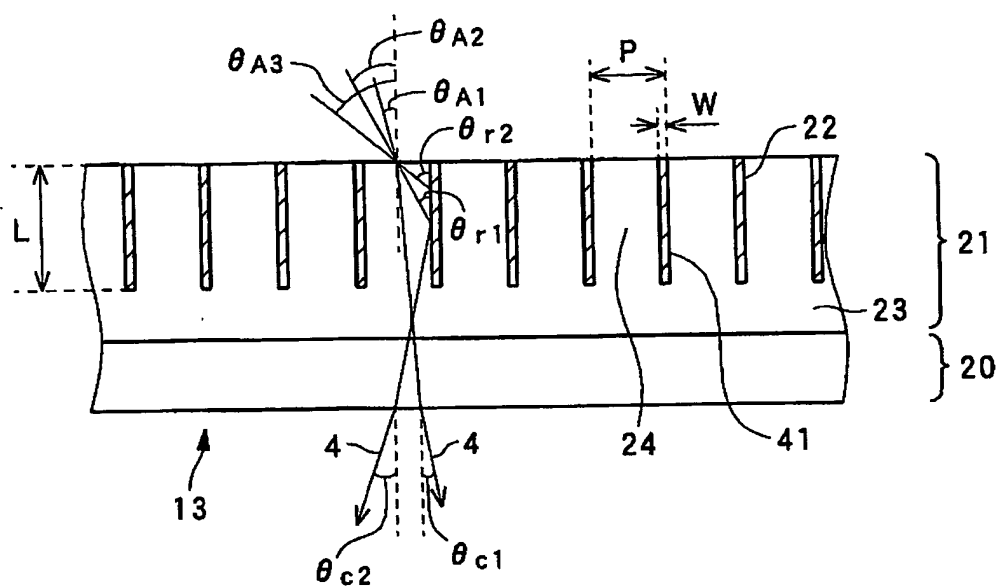
【図 3】



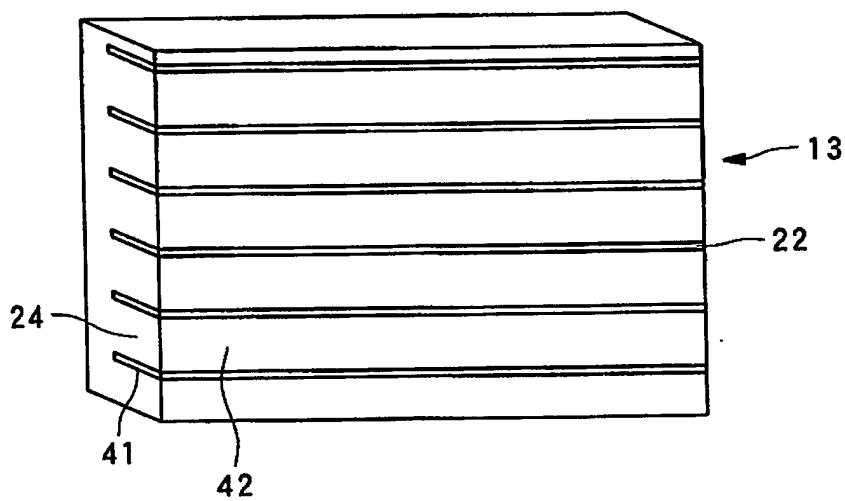
【図 4】



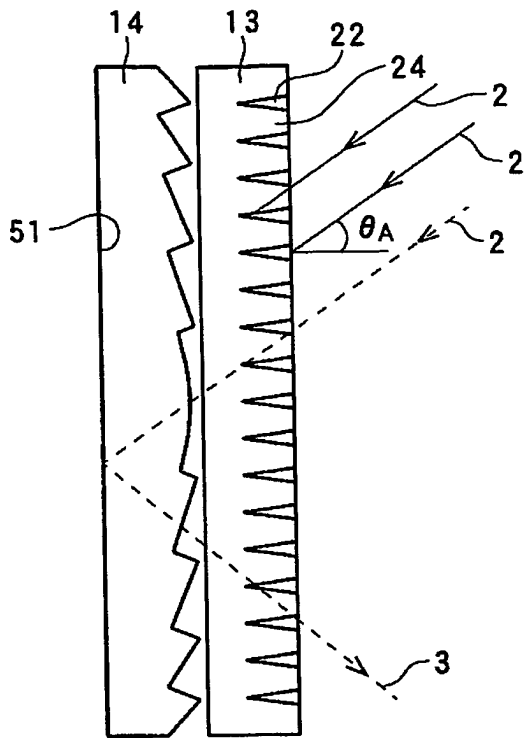
【図 5】



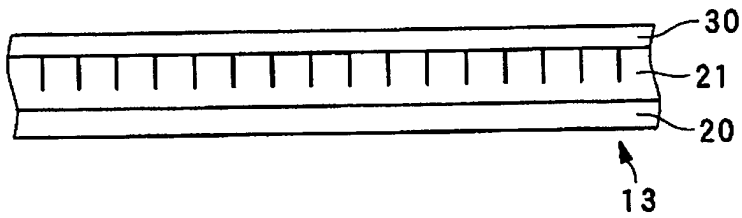
【図 6】



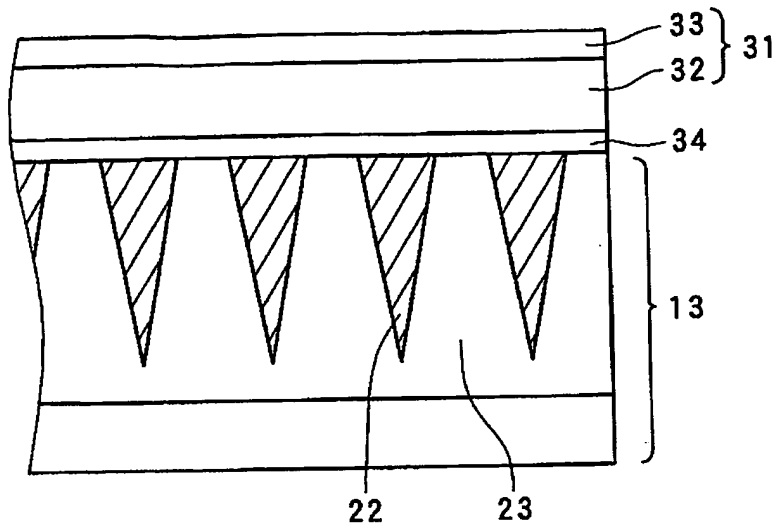
【図 7】



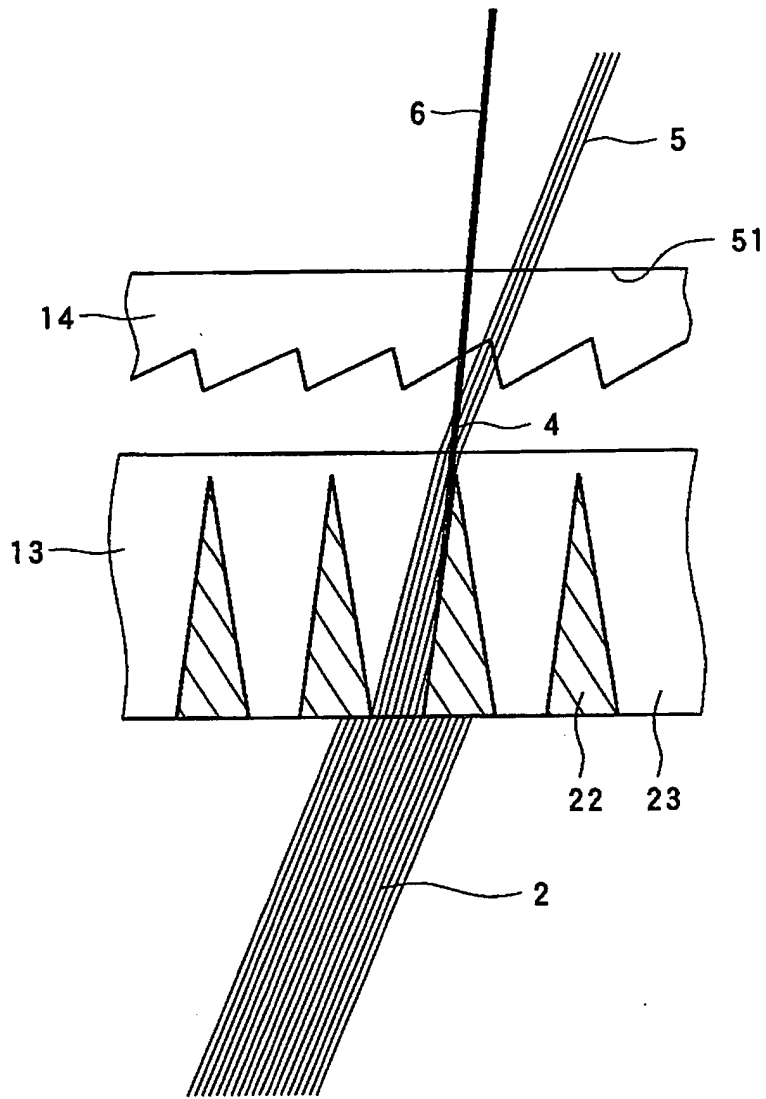
【図 8】



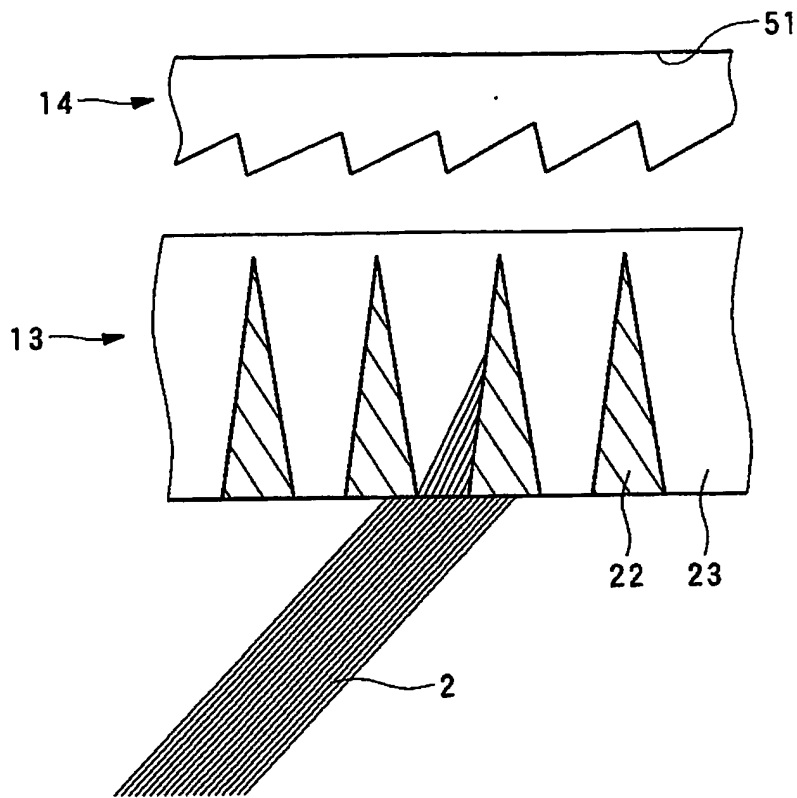
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 室内照明等の外光に起因したコントラストの低下を防止した透過型スクリーンを提供する。

【解決手段】 観察者側の面にフレネルレンズ要素が形成されたフレネルレンズシートと、そのフレネルレンズシートの観察者側に配置された遮光シート 13 とを有する透過型スクリーンであって、遮光シート 13 に、観察者側から入射する外光 2 のうち、フレネルレンズシートの投射光源側の面で全反射し、観察者側に出光する外光を吸収する遮光要素 22 を形成することにより、上記課題を解決した。このとき、遮光要素が、少なくとも、 $\theta < 24 + 0.018 \times F$ 、を満たす角度 θ で遮光シート中に透過屈折した外光を透過することが好ましい。ここで、 θ は遮光シートに入射する外光の角度であり、F はフレネルレンズ要素の焦点距離 (mm) である。

【選択図】 図 3

特願 2 0 0 3 - 0 7 7 8 1 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 8 9 7]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 7 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号

氏 名

大日本印刷株式会社